

クラス番号	602	担当教員名	柏 倉 秀 克
テーマ	障害のある人々の理解と支援ー“支え合い ともに生きるために”		
著書・論文	著 書	『障害者心理学への誘い』 みらい 2012 (単著) 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』 久美出版 2009 (編著) 『中途障害者の心理と支援』 久美出版 2008 (単著)	
研究課題等	研究課題	・ 障害者の自立と地域生活支援に関する研究 ・ 障害者の心理支援に関する研究 ・ 視覚障害者の自立支援に関する研究 ・ 障害学生支援に関する研究	

ゼミナール概要

キーワード：障害、家族、仲間、障害者心理、ピア・サポート

最近、日本人の自尊感情の低さが問題となっています。自分は何をやってもだめだ、と感じてしまう人が増えているのです。中でも障害のある人の自尊感情の低さは際立っているとの指摘があります。

生まれながらに障害のある人の生きづらさは、以前から指摘されてきましたが、病気や事故で障害を負った場合も深刻です。障害という体験は人のところに深い傷を残します。担当者は臨床現場で、精神面に深い傷を抱える障害のある人々に数多く接してきました。病気や事故で障害を負った人は外科的な治療を終えたとリハビリテーションを受け、子どもの場合は特別な教育的支援を受けるための転校、成人の場合は新たな就労を目指すこととなりますが、障害という体験が原因となるところの問題が尾を引いている場合が多くみられます。

障害によってもたらされる困難は、こころの健康に深刻な影響を与えます。近年、こころの回復を促す方法としてソーシャル・サポートが注目されています。専門家の援助とともに、家族や仲間による支援 (peer support) がこころの回復を促すという報告があります。担当者はこのような分野に関心を持って研究を進めています。

このゼミでは障害のある人々が抱える困難をさまざまな視点から分析します。さらに障害のある人々の自立を支援する方法について検討します。研究の対象となるのは障害のある人やその家族、特別な支援ニーズがある子どもたち、セルフヘルプ・グループ (本人や親の会) などです。調査フィールドは「発達支援センター」、「障害者地域生活支援センター」、「障害者リハビリテーションセンター」、「盲導犬訓練センター」などを想定しています。その他ゼミ生の希望を取り入れ、さまざまなフィールドで調査研究を進める予定です。

[ゼミの流れ]

春季休業中：春季（オリエンテーション）合宿

3年次前半：問題意識の整理、基本となる文献の学習、フィールドワーク（以下FW）、夏季合宿

3年次後半：調査や研究の方法を学ぶ、卒業論文の計画書づくり、FW、春季合宿

4年次前半：研究テーマに沿った調査、卒論の執筆、FW、卒論完成に向けた夏季合宿

4年次後半：社士国家試験全員合格を目指したゼミ内対策講座、卒業後の進路に向けた準備

担当教員からのメッセージ



このゼミを卒業したみなさんは多方面で活躍しています。一例を挙げると、①障害者福祉関係のソーシャルワーカー、②地方公務員、③大学院生、④福祉関連企業などです。なおこのゼミでは卒業論文を4年の夏休みまでに完成させ、後期は国家試験対策や卒業後の進路に向けた支援を行います。従ってこのゼミでは卒業論文の早期完成、国家試験の合格や専門職としての就職を真剣に考えている学生を歓迎します。ゼミはまじめに学ぶ場であるとともに仲間づくりや思い出作りの場でもあります。フィールドワークや合宿、コンパなどさまざまな時間を仲間や教員と共有できる学生を待っています。